

施設名	No	P (Plan)		D (do)		C (check)		A (act)	
		医療サービスの質に係る目的 (目標)	目標を達成するための達成計画	今期実施したこと		達成状況		令和2年度の目的/目標	達成計画
神戸低侵襲がん医療センター	1	<p>【目的】患者・家族に満足いく緩和ケアを提供する</p> <p>【目標】緩和ケアチーム活動をより具体的に浸透し、享受できるようにする。PCTカンファレンスやラウンドの意識を高め、必要に応じて連携が必要</p>	<p>①PCTカンファレンスとラウンドの充実 PCTメンバーの役割を明確にし、カンファレンスとラウンドの進め方を再検討、より迅速に対応できるように工夫していく</p>	<p>①1回のPCTカンファレンスの役割の分担を整理し、各職種がもって担っている役割を明確化。その他に問題点を各メンバーが把握できるようにして、細かい問題が浮き彫りになることがあった。一方、毎週1回開催のPCTカンファレンス以外に、小まめに病棟看護士と連携し、PCTに相談しやすい環境作りをできたこともあり、必要時に比較的に非公式の相談が直接くるようになり、その分正式な相談依頼が減少傾向にある</p>	<p>①達成できた ①一部達成できなかった ①その他</p> <p>達成できなかった理由 ①夜間の看護態勢の支那に伴い、許容範囲に達し、看護士が不足しているため、PCT活動に対する理解が不足している</p>	<p>【目的】患者・家族に満足いく緩和ケアを提供する</p> <p>【目標】緩和認定看護師を中心として、スタッフの役割を明確にし、チーム活動をより積極的に進め、必要に応じて連携が必要</p>	<p>①PCTカンファレンスとラウンドの充実 PCTメンバーの役割を明確にし、カンファレンスとラウンドの進め方を再検討、より迅速に対応できるように工夫していく</p>		
	2	<p>【目的】疼痛のスクリーニングが必要とされた症例のPCT介入の仕方について患者の満足度の高い介入の仕方を探る</p> <p>【目標】PCTの介入の再検討と合わせ、迅速に対応できるように方法を考える</p>	<p>入院時の疼痛のスクリーニングの介入方法を再検討</p>	<p>入院時の疼痛のスクリーニング用紙を再検討し、答えやすいように試行中</p>	<p>①達成できた ①一部達成できなかった ①その他</p> <p>達成できなかった理由 ①再検討によりスクリーニングを実施する際に入退院の協力に不安定な面があり、各看護士に対するスクリーニングの理解がまだ不十分</p>	<p>【目的】疼痛のスクリーニングが必要とされた症例のPCT介入の仕方について患者の満足度の高い介入の仕方を探る</p> <p>【目標】PCTのあり方の再検討と合わせ、スタッフへの意識付けの方法をさぐり、PCTへの依頼を増やす</p> <p>【目的】患者・家族に満足いく緩和ケアを提供する</p> <p>【目標】新人看護師も多く、看護師の緩和ケアに対するスキルを向上し、当院に合ったスキルアップ方法を実施する</p>	<p>入院時の疼痛のスクリーニングで、新たにできたスクリーニング用紙を使用して迅速に対応できるよう、回答用紙からの問い合わせがPCTにつながるようにする</p> <p>緩和認定看護師を中心に、院内の緩和ケア講習計画を立て実践していく</p>		
粒子線医療センター	1	<p>患者の疼痛症状が緩和し、照射が完了できる</p>	<p>①1回緩和ケアカンファレンスを開催し、患者の疼痛を緩和する</p>	<p>年間36回のカンファレンスを開催し、延べ88例について検討した。カンファレンスは30分～1時間で、参加者は緩和ケアチームメンバー(医師・放射線技師・薬剤師・看護師)以外に主治医や他の放射線科医師、内科医、看護スタッフが参加し、多職種でカンファレンスを行った。検討内容は身体症状緩和と、内科的治療14件、精神症状5件、患者の今後の経過も合わせた治療方針についての情報共有42件、予カンファレンス1件であった。</p>	<p>①達成できた ①一部達成できなかった ①その他</p> <p>カンファレンスは患者の症状緩和や、治療・看護の継続に役立つものであり、来年も継続して取り組む。</p>	<p>①感染対策を行いながら、週1回の緩和ケアカンファレンスを継続する。必要であれば重点的にせん定対策に取り組む。</p>			
	2	<p>症状緩和につながる提案を院内で標準化していく取り組みを行う</p>	<p>①治療体位による患者の疼痛を軽減する ②アミノ酸の充実 ③食事・治療を支える食事の提供、食事環境への配慮 ④入院環境・看護体制の継続と効果について研究的に取り組む ⑤院内多職種に対する緩和ケアの勉強会を開催する。</p>	<p>①認定員の工夫 認定員データベースを共有し、再現性のよい、疼痛の少ない認定員を作成することができるようになった。</p> <p>②アミノ酸の充実 ③食事について、摂取量の増加やがん治療継続の意識につながる特別メニューやバイキングを定期的に実施した。 ④食事療法について、2019年10月から食事療法による痛症管理(1時間)を毎週行った。前期の研究として、食事療法前夜のアンケート調査による精神面への効果について詳細を行い、学術発表の準備を行っている。また、月1回緩和ケアスタッフによる1日1講義を行った。更に不定期で数回講演会を企画して講演会を行った。 ⑤今年度は食事療法について院内の勉強会を実施した。</p>	<p>①達成できた ①一部達成できなかった ①その他</p> <p>目標達成できた。</p>	<p>①緩和ケア提案+個別看護体制に取り組む。 ②アミノ酸の充実</p>			